

松下幸之助氏がある時、「きみ、風の音を聞いても悟る人がおるわな」と部下であるPH P総合研究所の江口克彦氏に言ったそうです。何のことだか理解できなかった江口氏ですが、後に「話をするよりも、話を聞くほうが難しい。いくらいい話をして、聞く心がなければ何も得ることはできませんが、聞く心があれば、たとえつまらん話を聞いても、いや、たとえあの杉木立ちを鳴らす風の音を聞いても、悟ることができる。そんなもんですよ」ということができた。そんなもんですよ」とウエブマガジン「成功の法則」で述懐しています。

K氏がセミナーの講師として新米の頃、経営者を対象にした勉強会での出来事です。

講演を始めて、ふっと前を見ると最前列にT社のM氏が座っていました。K氏は以前にM氏の著書を読み、経歴、経験、人脈、生き方に感銘を受けたこともあり、緊張の一時間でした。話しを終え、司会者が勉強会の終了を告げると同時に、M氏がK氏のところへ駆け寄ってきたのです。

何を言われるのだろうか と戸惑いながらじつと下を向いていると、K氏の前にスツと手が出てきました。何のことかわからずに恐る恐る顔を上げると、M氏はニコニコと満面の笑みで「Kさん、今日はいい話を聞いた。勉強になったよ。ありがとう」と手を握って深々と頭を下げたそうです。

その後、K氏は三年間、M氏とお付き合いをしたそうですが、その感想を次のように述懐しています。
「氏とは三年間、お付き合いをさせていた



学ぶ姿勢があれば 気づきは与えられる

だきました。勉強会の時はいつも一番前に座り、熱心にメモをとっておられました。私たちは人の話を聞くとき、ややもするとその人の肩書きや学歴、経歴などを意識してしまいがちです。しかし、これは極端な言い方ですが、氏は子供の一言からでも学ぼうという姿勢が窺えました。学ぶ姿勢がなければ、どんな立派な話を聞いても身につかないし、逆に常に学ぶ姿勢があれば、枯葉が一枚落ちたことからでも学べると思われました。

「われ以外、皆わが師」とは小説家吉川英治の座右の銘です。氏は高等小学校を中退後、職を転々となりました。苦勞に苦勞を重ねて独力で文学を学び、『宮本武蔵』『太閤記』などの大作を世に送り出しました。すさまじいまでの「学ぶ意欲」と謙虚な「学ぶ姿勢」が内に秘めた天性を開花させたのです。

また『万人幸福の栞』の第四条「人は鏡 万象はわが師」の一節に、「古人は言った、『万象是我師』と。まじめにこれに師事して尋ねる人には、正しく答えてくれる。昔の人は天を父、地を母とよんだ。父母はその子の求めには、何物をも惜しまず与える。与えられるのは、ま心からこれを求めないからである」とあります。

自らを捨てた謙虚な姿勢での学びにより、それまで気づけなかったことに気づき、見えなかったものが見えてきます。私たちには経営者モーニングセミナー「経営者の集い」等々、数多くの学習の場があります。眼前にある自己向上の絶好のチャンスを活かし、学びを深めていきましょう。